

# 後藤みな子著作・関連文献目録

楠田剛士

## 凡例

### 1. 単行本

- 一、後藤みな子が二〇二五年一月までに発表した著作について、単行本、雑誌に掲載された小説、ノンフィクション、エッセイ、その他として分類し、発表順に書誌を記した。
- 一、関連文献について発表順に書誌を記した。
- 一、※は編者による注である。

※本目録作成にあたっては、稲田大貴氏、岩下祥子氏、喜谷暢史氏、栗山雄佑氏、坂口博氏、茶園梨加氏、松村信人氏、山口響氏、宮崎公立大学附属図書館にお世話になりました。感謝申し上げます。

※本稿は科学研究費補助金(19K13056)の助成を受けた。

- ・『刻を曳く』(河出書房新社、一九七二・八)
- ※第一回平林たい子賞候補。
- ・『女芸人間書』(潮出版社、一九八一・三)
- ※「潮」に連載された「地に生きる芸」のうち、「潮」(一九八〇・九)掲載回が未収録。
- ・『樹滴』(深夜叢書社、二〇一二・七)
- ※雑誌連載分に加筆修正。
- ・『高円寺へ』(深夜叢書社、二〇二一・一〇)

※雑誌連載分に加筆修正。

## 2. 小説

- ・「空色の本」〔「花曜日」三、諫早高校東校舎文学部、一九五三・一一〕
- ※「藤なみ江」の筆名で執筆。
- ・「刻を曳く」〔「文藝」河出書房新社、一九七二・一二〕
- ※第八回文藝賞受賞、第六六回芥川賞候補。
- ・「三本の釘の重さ」〔「文藝」河出書房新社、一九七二・四〕
- ※第六七回芥川賞候補。
- ・「炭塵のふる町」〔「文藝」河出書房新社、一九七二・八〕
- ・「雲の穴」〔「文學界」文藝春秋、一九七三・七〕
- ・「海鬼灯」〔「風景」悠々会、一九七三・九〕
- ・「風待ち島」〔「文藝」河出書房新社、一九七七・三〕
- ・「桐の露地」〔「燭台」三、新日本教育図書、二〇〇二・九〕
- ・「樹滴」〔連作 一〕〔「すとりんぼり」一、「すとりんぼり」の会、二〇〇六・七〕
- ・「樹滴」〔連作 二〕〔「すとりんぼり」二、「すとりんぼり」の会、二〇〇六・一二〕
- ・「樹滴」〔連作 三〕〔「すとりんぼり」三、「すとりんぼり」の会、二〇〇七・六〕
- ・「樹滴」〔連作 四〕〔「すとりんぼり」四、「すとりんぼり」の会、二〇〇七・一二〕
- ・「藤棚」〔「燭台」四、新日本教育図書、二〇〇八・六〕
- ・「樹滴」〔連作 五〕〔「すとりんぼり」五、「すとりんぼり」の会、二〇〇八・八〕
- ・「樹滴」〔連作 六〕〔「すとりんぼり」六、「すとりんぼり」の会、二〇〇九・二〕
- ・「樹滴」〔連作 七〕〔「すとりんぼり」七、「すとりんぼり」の会、二〇〇九・八〕
- ・「樹滴」〔連作 八〕〔「すとりんぼり」八、「すとりんぼり」の会、二〇一〇・四〕
- ・「高円寺へ」〔「すとりんぼり」九、「すとりんぼり」の会、二〇一〇・一一〕
- ・「炭塵のふる町」〔『コレクション戦争と文学一九 ヒロシマ・ナガサキ』集英社、二〇一一・六〕
- ※「炭塵のふる町」〔「文藝」河出書房新社、一九七二・八〕の再録
- ・「高円寺へ」〔二〕〔「すとりんぼり」一〇、「すとりんぼり」の会、二〇一一・八〕
- ・「高円寺へ」〔三〕〔「すとりんぼり」一一、「すとりんぼり」の会、二〇一一・三〕
- ・「高円寺へ」〔四〕〔「すとりんぼり」一二、「すとりんぼり」の会、二〇一一・一〇〕
- ・「高円寺へ」〔五〕〔「イリップス」II nd 一三、濔標、二〇一四・五〕
- ・「高円寺へ」〔六〕〔「イリップス」II nd 一四、濔標、二〇一四・一一〕
- ・「高円寺へ」〔七〕〔「イリップス」II nd 一五、濔標、二〇一五・三〕
- ・「高円寺へ」〔八〕〔「イリップス」II nd 一六、濔標、二〇一五・七〕
- ・「高円寺へ」〔九〕最終回〔「イリップス」II nd 一七、濔標、二〇一五・一一〕
- ・「川岸」〔連作 二〕〔「イリップス」II nd 一八、濔標、二〇一六・三〕
- ・「川岸」〔連作 三〕〔「イリップス」II nd 一九、濔標、二〇一六・七〕
- ・「川岸」〔連作 三〕〔「イリップス」II nd 二〇、濔標、二〇一六・一〇〕

- ・「川岸」(連作四) (「イリプス II nd」二一、濔標、二〇一七・二)
- ・「川岸」(連作五) (「イリプス II nd」二二、濔標、二〇一七・六)
- ・「川岸」(連作六) (「イリプス II nd」二三、濔標、二〇一七・一〇)
- ・「川岸」(連作七) (「イリプス II nd」二四、濔標、二〇一八・三)
- ・「川岸」(連作八) (「イリプス II nd」二五、濔標、二〇一八・七)
- ・「川岸」(連作九) (「イリプス II nd」二六、濔標、二〇一八・一一)
- ・「川岸」(連作十) (「イリプス II nd」二七、濔標、二〇一九・三)
- ・「霧雨」(連作一) (「イリプス II nd」二八、濔標、二〇一九・七)
- ・「炭塵のふる町」(『セレクション戦争と文学』ヒロシマ・ナガサキ』集英社文庫、二〇一九・七)

※「炭塵のふる町」(「文藝」河出書房新社、一九七二・八)の再録。

- ・「霧雨」(連作二) (「イリプス II nd」二九、濔標、二〇一九・一一)
  - ・「霧雨」(連作三) (「イリプス II nd」三〇、濔標、二〇二〇・三)
  - ・「霧雨」(連作四) (「イリプス II nd」三一、濔標、二〇二〇・七)
  - ・「霧雨」(連作五) (「イリプス II nd」三二、濔標、二〇二〇・一一)
  - ・「霧雨」(連作六) (「イリプス II nd」三三、濔標、二〇二一・三)
  - ・「霧雨」(連作七) (「イリプス II nd」三四、濔標、二〇二一・七)
  - ・「霧雨」(連作八) (「イリプス II nd」三五、濔標、二〇二一・一一)
  - ・「霧雨」(連作九) (「イリプス II nd」三六、濔標、二〇二二・三)
  - ・「霧雨」(連作十) (「イリプス II nd」三七、濔標、二〇二二・七)
  - ・「霧雨」(連作十一) (「イリプス III rd」一、濔標、二〇二二・一〇)
- ※末尾に最終回を示す記載はなし。「イリプス III rd」二(濔標、二〇二三・一)には掲載なし。
- ・「昼の月」(連作一) (「イリプス III rd」三、濔標、二〇二三・四)
  - ・「昼の月」(連作二) (「イリプス III rd」四、濔標、二〇二三・七)

- ・「昼の月」(連作三) (「イリプス III rd」五、濔標、二〇二三・一〇)
- ・「昼の月」(連作四) (「イリプス III rd」六、濔標、二〇二四・一)
- ・「昼の月」(連作五) (「イリプス III rd」七、濔標、二〇二四・四)
- ・「昼の月」(連作六) (「イリプス III rd」八、濔標、二〇二四・七)
- ・「昼の月」(連作七) (「イリプス III rd」九、濔標、二〇二四・一〇)
- ・「昼の月」(連作八) (「イリプス III rd」一〇、濔標、二〇二五・一)

### 3. ノンフィクション

- ・「地に生きる芸 佐賀にわか 九州女の心意気」(「潮」潮出版社、一九七九・六)
- ・「地に生きる芸 ある琵琶師と火野葦平」(「潮」潮出版社、一九七九・七)
- ・「地に生きる芸 〈ゴツタン〉の女」(「潮」潮出版社、一九七九・一〇)
- ・「地に生きる芸 桜島に流れるシャンソン」(「潮」潮出版社、一九七九・一一)
- ・「地に生きる芸 〈血〉を唄う女・津和のり子」(「潮」潮出版社、一九七九・一二)
- ・「地に生きる芸 涙を笑いとばす三味線人生 玉川スミ」(「潮」潮出版社、一九八〇・二)
- ・「地に生きる芸 地上一〇メートル最後の芸」(「潮」潮出版社、一九八〇・三)
- ・「地に生きる芸 今宵一夜のじゃんがら節 津軽家すわ子」(「潮」潮出版社、一九八〇・四)

- ・「地に生きる芸 花園神社に梁塵秘抄は流れる 桃山晴衣」(「潮」潮出版社、一九八〇・五)
- ・「地に生きる芸 炎情の道行を踊る 長嶺ヤス子」(「潮」潮出版社、一九八〇・六)
- ・「地に生きる芸 世界を回る夢みるダンサー 石川みのり」(「潮」潮出版社、一九八〇・七)
- ・「地に生きる芸 旅芸人の花道 丘輝美」(「潮」潮出版社、一九八〇・八)
- ・「地に生きる芸 流れすぎてゆく時の淵で 薩めぐみ」(「潮」潮出版社、一九八〇・九)
- ※『女芸人聞書』未収録。
- ・「地に生きる芸 女剣劇の響きは消えず 浅香光代」(「潮」潮出版社、一九八〇・一〇)
- ・「地に生きる芸 美しい狂女を演じる 白石加代子」(「潮」潮出版社、一九八〇・一一)
- ・「地に生きる芸 マイムを舞う夜叉 ヨネヤマ・ママコ」(「潮」潮出版社、一九八〇・一二)
- ・「日向「新しき村」へ」(「潮」潮出版社、一九八三・三)
- ・「小燕」と呼ばれる中国の歌姫」(「潮」潮出版社、一九八五・二)
- ・「新しき村」二人の晩秋」(「潮」潮出版社、一九九一・一)
- ・「現代の顔9 大田昌秀——沖縄県知事 平和をつくる地方政治の挑戦」(「潮」潮出版社、一九九一・六)
- ・「取材者の眼——農村と農業の現場から——」(「西日本文化」三五五、西日本文化協会、一九九一・一〇)

#### 4. エッセイ

- ・「受賞のことば」(「文藝」河出書房新社、一九七一・一二)
- ・「二つの石」(「文學界」文藝春秋、一九七三・五)
- ・「出会い 一冊の本」(「海」中央公論社、一九七三・八)
- ・「読書ノート ジャン・ピエール・デブリー／アンドレ・マンラ著 河合亨訳『わが告発』」(「文化評論」一四五、日本共産党中央委員会、一九七三・八)
- ・「一輪の花の幻 長岡弘芳『原爆文学史』」(「文芸展望」三、筑摩書房、一九七三・一〇)
- ・「宿」(「三田文学」三田文学会、一九七三・一一)
- ・「佐賀にわか」(「潮」潮出版社、一九七九・一)
- ・「視点 邂逅」(「毎日新聞」一九八〇・一・一〇・夕刊)
- ・「視点 削られたサイン」(「毎日新聞」一九八〇・一・一七・夕刊)
- ・「視点 未成のまま……」(「毎日新聞」一九八〇・一・二四・夕刊)
- ・「視点 雲の穴」(「毎日新聞」一九八〇・一・三一・夕刊)
- ・「視点 重い音」(「毎日新聞」一九八〇・二・七・夕刊)
- ・「視点 戸籍謄本」(「毎日新聞」一九八〇・二・一四・夕刊)
- ・「視点 ブーツ」(「毎日新聞」一九八〇・二・二一・夕刊)
- ・「視点 暁闇」(「毎日新聞」一九八〇・二・二八・夕刊)
- ・「視点 母の仕事」(「毎日新聞」一九八〇・三・六・夕刊)
- ・「視点 青空」(「毎日新聞」一九八〇・三・一三・夕刊)
- ・「視点 父と息子の勲章」(「毎日新聞」一九八〇・三・二七・夕刊)
- ・「ある芸人との出会い」(「革新」民社党本部教宣局、一九八一・二)
- ・「暮しのつみ草 青い空がきれい」(「革新」民社党本部教宣局、一

- ・九八一・六)
- ・「暮しのつみ草 ある夫婦の話」(「革新」民社党本部教宣局、一九八一・七)
- ・「暮しのつみ草 あじさいの花」(「革新」民社党本部教宣局、一九八一・八)
- ・「暮しのつみ草 私の八月」(「革新」民社党本部教宣局、一九八一・九)
- ・「暮しのつみ草 書くこと、生きること」(「革新」民社党本部教宣局、一九八一・一〇)
- ・「暮しのつみ草 秋、そして花」(「革新」民社党本部教宣局、一九八一・一一)
- ・「暮しのつみ草 秋、人・出会いと別れ」(「革新」民社党本部教宣局、一九八一・一二)
- ・「暮しのつみ草 日向新しき村」(「革新」民社党本部教宣局、一九八一・一)
- ・「暮しのつみ草 夜更けの電話」(「革新」民社党本部教宣局、一九八一・二)
- ・「暮しのつみ草 本音はどこに」(「革新」民社党本部教宣局、一九八一・三)
- ・「美しい話」(「かくしん」民社党本部教宣局、一九八二・一一)
- ・「テレビと私 私自身が社会の窓に」(「かくしん」民社党本部教宣局、一九八五・八)
- ・「博多独楽」(「知識」アートプロダクション・ノア「知識」出版部、一九八五・一一)
- ・「読書日記 夫や子が離れた時の女の孤独を思う『寂庵だより』」(「Kakushin」民社党本部教宣局、一九八六・一一)
- ・「戦艦(大和)の妻」(「Kakushin」民社党本部教宣局、一九八八・九)
- ・「心に残る本3 毎年、手にとる恋愛小説 『花影―大岡昇平著』(「パンプキン」潮出版社、一九九七・三)
- ・「近況往来 書くことが私の人生」(「西日本新聞」二〇〇三・一一一)
- ・「白い鳥が飛び立った」(「あしへい」八、創言社、二〇〇五・一一二)
- ・「会報創刊号について考えたこと」(「北九州文学協会会報」二、北九州文学協会、二〇〇七・一)
- ・「長い空白、罪の気配」(「西日本新聞」二〇一〇・八・一四)
- ・「炭塵のふる町」に寄せて」(「ひろば北九州」三〇六、北九州芸術文化振興財団、二〇一一・一二)
- ・「一本刀土俵入り」(「西日本新聞」二〇一三・八・一七)
- ・「文学をしっかりと掴んだまま」(「すとろんぼり」一三、「すとろんぼり」の会、二〇一四・一)
- ・「北九州市立文学館・友の会」会長に就任して」(「北九州市立文学館友の会会報」一、北九州市立文学館、二〇一四・一二)
- ・「諫早」にて。」(「すとろんぼり」一四、「すとろんぼり」の会、二〇一四・一二)
- ・「北九州市立文学館・友の会」二年目、会長として」(「北九州市立文学館友の会会報」二、北九州市立文学館、二〇一五・一〇)
- ・「小倉に住んで。」(小野恵、中西由紀子、稲田大貴、今川英子企画・編集「北九州市立文学館第二一回特別企画展 ブンガク最前線―北九州発」北九州市立文学館、二〇一五・一〇)
- ・「筑紫美主子さんと私」(「すとろんぼり」一五、「すとろんぼり」の会、二〇一五・一二)

5. その他（解説、講演、インタビュー、対談、選評等）

・「原爆後の長崎」を背負って」（「長崎の証言ニュース」一三、長崎の証言の会、一九七二・三）

※通信文

・福田須磨子詩碑建立委員会編「福田須磨子詩碑」（福田須磨子詩碑建立委員会、一九七五・八）

※詩碑カンパの通信文。

・「九三・北九州文化シーン 文学・後藤みな子さん」（「西日本新聞」一九九三・一二・二六）

※談話

・北九州市女性史編纂実行委員会、財団法人アジア女性交流・研究フォーラム編著『北九州市女性の一〇〇年史 おんなの軌跡・北九州』（ドメス出版、二〇〇五・一二）

※後藤の執筆箇所は、第五章第一節3「創作で紡ぎ出す人間模様」（二六六・二七〇頁）、第五章第一節5「詩海に漕ぎ出す女たち」（二七四・二七六頁）、第五章第三節1「死ぬまで女を描きたい」（二八四頁）、第五章第三節6「言葉の生命を墨に託す」（二九〇・二九一頁）。

・「私の浦上」（「国際文化研究所論叢」一七、筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部国際文化研究所、二〇〇六・八）

※シンポジウム「戦後六〇年を問う 文学の視点から——アジア・核・基地——」における講演。

・星加輝光、佐木隆三、古川薫、後藤みな子「九州文学と岩下俊作——無法松作家の素顔を語る——」（「燭台」四、新日本教育図書、二〇〇八・六）

・「選評」（第一回（二〇〇七年度）北九州文学協会文学賞受賞作品集）北九州文学協会、二〇〇八・三）

・後藤みな子、塚原泰介（聞き手）「いま、戦争を考える 今も原爆の刻を曳く」（「ラジオ深夜便」NHKサービスセンター、二〇〇八・一二）

※「NHKラジオ深夜便」二〇〇八年八月一二日放送。

・「選評」（第二回（二〇〇八年度）北九州文学協会文学賞受賞作品集）北九州文学協会、二〇〇九・三）

・「選評」（「ひびき」北九州文学協会事務局、二〇一一・三）

※第四回（二〇一〇年度）北九州文学協会文学賞作品集

・「会長に就任して」（「北九州文学協会会報」二七、北九州文学協会、二〇一一・四）

・「選評」（「ひびき」北九州文学協会事務局、二〇一二・三）

※第五回（二〇一一年度）北九州文学協会文学賞作品集

・「選評」（「ひびき」北九州文学協会、二〇一三・三）

※第六回（二〇一二年度）北九州文学協会文学賞作品集

・「選評」（「ひびき」市政五〇周年記念号、北九州文学協会、二〇一四・二）

※第七回（二〇一三年度）北九州文学協会文学賞作品集

・「選評」（「ひびき」第九回（二〇一五年度）北九州文学協会文学賞作品集）北九州文学協会、二〇一六・三）

・今川英子、後藤みな子（聞き手）「今」を映す文学館に 開館一〇周年 今川英子館長に聞く」（「北九州市立文学館友の会会報」四、北九州市立文学館、二〇一七・一）

・「選評」（「ひびき」第十回（二〇一六年度）北九州文学協会文学賞受賞作品集）北九州文学協会、二〇一七・三）

- ・「理事長から皆さまへ」〔北九州文学協会だより〕一〇、北九州文学協会、二〇一八・一)
- ・「選評」〔ひびき 第十一回(二〇一七年度) 北九州文学協会文学賞受賞作品集〕北九州文学協会、二〇一八・三)
- ・「理事長から皆さまへ」〔北九州文学協会だより〕一二、北九州文学協会、二〇一九・一)
- ・「選評」〔ひびき 第十二回(二〇一八年度) 北九州文学協会文学賞受賞作品集〕北九州文学協会、二〇一九・三)
- ・「理事長から皆さまへ」〔北九州文学協会だより〕一四、北九州文学協会、二〇二〇・一)
- ・「選評」〔ひびき 第十三回(二〇一九年度) 北九州文学協会文学賞受賞作品集〕北九州文学協会、二〇二〇・三)
- ・「被爆七五年 明日へのメッセージ(三)」「心の浸食」表し続ける  
長崎原爆後の家族をテーマにする作家 後藤みな子さん(八三)〔西日本新聞〕二〇二〇・八・一一)
- ・「令和二年度総会報告」〔北九州市立文学館友の会会報〕一一、北九州市立文学館、二〇二〇・八)
- ・「理事長から皆さまへ」〔北九州文学協会だより〕一六、北九州文学協会、二〇二一・一)
- ・「選評」〔ひびき 第十四回(二〇二〇年度) 北九州文学協会文学賞受賞作品集〕北九州文学協会、二〇二一・三)
- ・「選評」〔ひびき 第十五回(二〇二一年度) 北九州文学協会文学賞受賞作品集〕北九州文学協会、二〇二一・一二)
- ・「理事長から皆さまへ」〔北九州文学協会だより〕一八、北九州文学協会、二〇二一・一)

- ・「選評」〔ひびき 第十七回(二〇二三年度) 北九州文学協会文学賞受賞作品集〕北九州文学協会、二〇二四・二)

## 6. 関連文献

- ・「よみうり抄 昭和四十六年度文芸賞」〔読売新聞〕一九七一・一〇・二三・夕刊)
- ・「長崎原爆の怨念語る 「文芸賞」の後藤みな子さん」〔朝日新聞〕一九七一・一一・一六)
- ・「本田元弥氏と後藤みな子さんに 文芸賞贈呈式」〔毎日新聞〕一九七一・一一・二三・夕刊)
- ・鈴木勝子「ひととき 後藤さん「長崎原爆」書続けて!」〔朝日新聞〕一九七一・一一・二五)
- ・江藤淳、武田泰淳、小島信夫、野間宏「選後評」〔文藝〕河出書房新社、一九七一・一二)
- ・「よみうり抄 第六十六回芥川賞・直木賞予選通過作品」〔読売新聞〕一九七二・一・七夕刊)
- ・井上靖、吉行淳之介、永井龍男、中村光夫、大岡昇平、安岡章太郎、瀧井孝作、丹羽文雄、舟橋聖一「第六十六回芥川賞選評」〔文藝春秋〕文藝春秋、一九七二・三)
- ・河野多恵子、川村二郎「対談時評」〔文學界〕文藝春秋、一九七二・五)
- ・江刺昭子「『原爆後の人間』の生きざま——「刻を曳く」「三本の釘の重さ」にみる後藤みな子氏の決意——」〔長崎の証言〕四、長崎の証言刊行委員会、一九七二・七)

- ・大岡昇平、井上靖、吉行淳之介、安岡章太郎、中村光夫、丹羽文雄、永井龍男、瀧井孝作、舟橋聖一、「第六十七回芥川賞選評」(『文藝春秋』文藝春秋、一九七二・九)
- ※『芥川賞全集』九(文藝春秋、一九八二・一〇)に所収。
- ・松原新一「長崎被爆者の生と内面——沈黙にひそむ怖れと痛み」(『読売新聞』一九七二・九・二二)
- ・北山哲郎「書評 後藤みな子『刻を曳く』」(『三田文学』三田文学会、一九七二・一一)
- ・草鹿外吉、長谷川綾子、松田解子「座談会・現代文学をどう読むか(一〇) 高井有一『遠い日の海』・後藤みな子『刻を曳く』」(『文化評論』日本共産党中央委員会、一九七三・一)
- ・川村二郎「文芸時評(上)」(『読売新聞』一九七三・六・二七)
- ・中里喜昭「長崎の原爆をえがく——私事はどう超えられたか——」(『長崎の証言』五、長崎の証言刊行委員会、一九七三・七)
- ・佐多稲子、遠藤周作、高橋英夫「創作合評」(『群像』講談社、一九七三・八)
- ・松田悠美「後藤みな子」(『國文學 解釈と鑑賞』至文堂、一九七三・九)
- ・「東京を捨てる」(『毎日新聞』一九七四・六・一九・夕刊)
- ・萬田務「刻を曳く 後藤みな子」(『國文學 解釈と鑑賞』至文堂、一九七四・七)
- ・夏堀正元「後藤みな子について」(『眼—わが純粹観客』おりじん書房、一九七四・一一)
- ・長岡弘芳「戦後文学のなかの原爆」(『方向感覚』三四、方向感覚の会、一九七六・二)
- ・秋山駿「文芸時評(下)」(『読売新聞』一九七七・二・二五)
- ・立原正秋、古屋健三「対談時評——戦争体験とジーンズ世界」(『文學界』文藝春秋、一九七七・四)
- ・長岡弘芳『原爆民衆史』(未来社、一九七七・七)
- ※長岡弘芳「戦後文学のなかの原爆」(『方向感覚』三四、方向感覚の会、一九七六・二)の再録。
- ・尾形明子「後藤みな子」(日本近代文学館、小田切進編『日本近代文学大事典』二、講談社、一九七七・一一)
- ・T「女芸人間書」(『潮』潮出版社、一九八一・六)
- ・「文学新人賞受賞者たちの一〇年の歳月——小説に憑かれた人たちの『今いずこ』」(FOCUS)新潮社、一九八二・一・一(八合併号)
- ・黒古一夫「(地獄)からの帰還者たち——原爆文学論(下)」(『教育国語』六九、むぎ書房、一九八二・六)
- ・佐藤静夫「戦後文学のなかの」原爆文学(『文化評論』新日本出版社、一九八二・九)
- ・井上靖、吉行淳之介、永井龍男、中村光夫、大岡昇平、安岡章太郎、瀧井孝作、丹羽文雄、舟橋聖一「第六十六回芥川賞選評」(『芥川賞全集』九、文藝春秋、一九八二・一〇)
- ※「文藝春秋」(文藝春秋、一九七二・三)の再録。
- ・大岡昇平、井上靖、吉行淳之介、安岡章太郎、中村光夫、丹羽文雄、永井龍男、瀧井孝作、舟橋聖一、「第六十七回芥川賞選評」(『芥川賞全集』九、文藝春秋、一九八二・一〇)
- ※「文藝春秋」(文藝春秋、一九七二・九)の再録。
- ・早川雅之「長崎の文学V 林京子と後藤みな子」(『人文社会研究』六、長崎総合科学大学教養部、一九八三・三)

・黒古一夫『原爆とことば——原民喜から林京子まで』（三一書房、一九八三・七）

※黒古一夫〈地獄〉からの帰還者たち——原爆文学論（下）」（『教育国語』六九、むぎ書房、一九八二・六）を再録。

・長崎県高等学校教育研究会国語部会編『新訂 長崎の文学』（新訂長崎の文学研究会、一九八六・一〇）

・早川雅之「ナガサキを描いた三人の女性作家——佐多稲子・後藤みな子・林京子——」（『社会文学』四、日本社会文学会、一九九〇・七）

・「訃報 後藤敏郎氏」（『毎日新聞』一九九三・七・二八）

※記事中に「作家の後藤みな子さんの父」とある。

・「唯我独創の国から・西日本二〇世紀」人々点描（一二）二番走者」（『西日本新聞』一九九八・六・一九）

※後藤のコメントあり。

・萬田務『心の棲み家——昭和の作家群像』（双文社出版、一九九八・八）

※萬田務「刻を曳く 後藤みな子」（『國文學 解釈と鑑賞』至文堂、一九七四・七）を再録。

・「後藤みな子」（神奈川文学振興会編『原爆文学展 ヒロシマ・ナガサキ——原民喜から林京子まで——』神奈川近代文学館、神奈川文学振興会、二〇〇〇・一〇）

※作者紹介。

・栗田藤平「あとがき」（『九州作家』一一四、九州作家社、二〇〇〇・一一）

※後藤の同人入会について。

・「長崎原爆の怨念語る 「文芸賞」の後藤みな子さん」（『ドキュメント 人と業績大事典』編集委員会編『新聞に見る人物大事典 ドキ

ュメント 人と業績大事典』九、ナダ出版センター、二〇〇〇・一二）  
※「朝日新聞」（一九七二・一一・一六）の再録。

・花田俊典「忘却する権利 後藤みな子「刻を曳く」、〈火〉と〈日〉 野見山朱鳥と金丸榊一」（花田俊典『清新な光景の軌跡——西日本戦後文学史——』西日本新聞社、二〇〇二・五。補訂版、二〇〇四・四）

・長野秀樹「西日本文学展望 私的な言葉の持つ強さ」（『西日本新聞』二〇〇二・九・三）

・花田俊典「雪月花」（『西日本新聞』二〇〇二・九・五）

・松原新一「よみうり文芸時評 創作 後藤みな子「桐の露地」語り難いものに迫る力作」（『読売新聞』西部、二〇〇二・九・二四・夕刊）

・浦田義和「文芸リポート・同人誌」（『朝日新聞』西部、二〇〇二・一一・一六）

・「移動支局の精神 〝いつまでも 名残惜しんで閉局式」（『毎日新聞』福岡、二〇〇三・九・二九）

※後藤のコメントあり。

・「福岡「はがき随筆」の集い 五〇人が和やかに交流」（『毎日新聞』福岡、二〇〇四・三・七）

※後藤のコメントあり。

・「毎日ペンクラブ総会 北九州の後藤さん、林芙美子テーマに講演」（『毎日新聞』山口、二〇〇四・四・二六）

※後藤のコメントあり。

・坂口博「後藤みな子」（福岡市総合図書館文学・文書課文学係編『福岡と芥川賞・直木賞——その作家と作品』福岡市総合図書館文学・

文書課文学係、二〇〇四・六)

※無署名だが坂口が執筆。

・黒古一夫 「精神の地獄」を描く——後藤みな子『刻を曳く』ほか(黒古一夫『21世紀の若者たちへ4 原爆は文学にどう描かれてきたか』八朔社、二〇〇五・八)

・「模索する表現者たち 被爆六〇年2 小説家の傷 時間を超える力、信じて」(「朝日新聞」西部、二〇〇五・一〇・五)

・松原新一 「すとりんぼりの発行について」(二〇〇五・一二)

※松原から「すとりんぼり」同人に配布された。

・小沢節子、直野章子、田崎弘章、柳瀬善治、川口隆行「第一六回原爆文学研究会公開シンポジウム 原爆をどのように語りうるか——原爆を描くこと、受容することをめぐって」(「原爆文学研究」増刊号、花書院、二〇〇六・三)

※田崎の発言で言及。

・松原新一 「すとりんぼり」通信」(一、「すとりんぼり」の会、二〇〇六・七・二五)

※「すとりんぼり」一(「すとりんぼり」の会、二〇〇六・七)に添付され、一号のみ出された。

・松本常彦 「時評 小説 終わらない過去を回想」(「読売新聞」西部、二〇〇六・八・二四)

・中野和典 「忘却の彼岸——後藤みな子「刻を曳く」論——」(「原爆文学研究」五、花書院、二〇〇六・一〇)

・「後藤みな子」(北九州市立文学館編『北九州の文学』(北九州市立文学館、二〇〇六・一一)

※作者紹介

・「林芙美子の作品を解説 作家の後藤さん 高取文化塾で講演」(「西日本新聞」二〇〇七・二・一二)

※後藤のコメントあり。

・浦田義和 「文芸リポート・同人誌」(「朝日新聞」西部、二〇〇六・一一・二四・夕刊)

・松下博文 「ことばの森から 極私的土俗神話」(「毎日新聞」西部、二〇〇七・三・二四)

・田崎弘章 「後日談であることを拒絶する長崎原爆文学——女性視点と日常性——」(「人間文化研究」五、長崎純心大学大学院人間文化研究科、二〇〇七・三)

・花田俊典 『花田俊典の雪月花』(西日本新聞社、二〇〇七・六)

※花田俊典 「雪月花」(「西日本新聞」二〇〇二・九・五)を再録。

・「表現者の現場九一 作家 後藤みな子さん」(「読売新聞」西部、二〇〇七・六・一七)

・松下博文 「ことばの森から 帰還米兵の闇」(「毎日新聞」西部、二〇〇七・九・二二)

・長野秀樹 「西日本文学展望 母の愛」(「西日本新聞」二〇〇八・一・三〇)

・松本常彦 「時評 小説 「姨捨」の系譜 問いの反復」(「読売新聞」西部、二〇〇八・二・一・夕刊)

・長野秀樹 「西日本文学展望 半ばする愛憎」(「西日本新聞」二〇〇八・七・三〇)

・松本常彦 「時評 小説 誌名の重さに恥じぬ構成」(「読売新聞」西部、二〇〇八・八・一・夕刊)

・長野秀樹 「西日本文学展望 守る」(「西日本新聞」二〇〇八・八・

二七)

- ・松本道介「同人誌評」生活の無為性」(「文學界」二〇〇八・一〇)
- ・長野秀樹「西日本文学展望 伝える工夫」(「西日本新聞」二〇〇九・三・三〇)
- ・松原新一「文読む月日」(「緑の馬車」一〇、松原新一、二〇〇九・四)
- ・長野秀樹「西日本文学展望 象徴」(「西日本新聞」二〇〇九・九・二八)
- ・松原新一「文読む月日」(「緑の馬車」一三、松原新一、二〇〇九・一〇)
- ・堀勇蔵「後藤みな子」(志村有弘編『福岡県文学事典』勉誠出版、二〇一〇・三)
- ・松本常彦「時評 小説 競馬のような男の生き様」(「読売新聞」西部、二〇一〇・五・一一・夕刊)
- ・長野秀樹「西日本文学展望 文学と人生」(「西日本新聞」二〇一〇・六・一一)
- ・松下博文「ことばの森から やさしさの文学」(「毎日新聞」西部、二〇一〇・六・二二)
- ・ジョン・W・トリート「長崎と人間の未来」(ジョン・W・トリート(著)、水島裕雅、成定薫、野坂昭雄(監訳)『グラウンド・ゼロを書く——日本文学と原爆』法政大学出版局、二〇一〇・七)
- ・「後藤みな子さん 小説「樹滴」完結 「原爆と家族」問い続け」(「読売新聞」西部、二〇一〇・八・三・夕刊)
- ・松原新一、岩佐裕見「対談 呼び戻される〈家族〉——後藤みな子『樹滴』について——」(「すところんぼり」九、「すところんぼり」

の会、二〇一〇・一一)

- ・長野秀樹「西日本文学展望 焦点化」(「西日本新聞」二〇一〇・一二・二)
- ・長野秀樹「西日本文学展望」(「西日本新聞 交流」二〇一〇・一二・二九)
- ・松下博文「ことばの森から 正常と異常」(「毎日新聞」西部、二〇一一・三・二二)
- ・成田龍一「解説 ヒロシマ・ナガサキの証言と記憶」(『コレクション戦争と文学一九 ヒロシマ・ナガサキ』集英社、二〇一一・六)
- ・長野秀樹「西日本文学展望 「額縁」の役割」(「西日本新聞」二〇一一・九・三〇)
- ・「どうするキタキユー 成熟都市への羅針盤 (九) 文学 るつぼの街が磨く思考」(「西日本新聞」二〇一二・二・二四)
- ※後藤のコメントあり。
- ・「文人夫婦 新たな光 久留米大名誉教授ら研究会」(「読売新聞」西部、二〇一二・六・三〇)
- ※山本健吉・石橋秀野研究会の世話人代表について。
- ・長野秀樹「西日本文学展望 題材」(「西日本新聞」二〇一二・七・三一)
- ・大矢和世「空白を埋めるように 四〇年ぶりの小説 原爆、父と母：死者との交感」(「西日本新聞」二〇一二・八・八)
- ・田中和生「文芸時評 〈時間〉」(「毎日新聞」二〇一二・八・二九・夕刊)
- ・松本常彦「時評 小説 反復する光景 生の断片」(「読売新聞」西部、二〇一二・九・八)

- ・白石明彦「著者に会いたい 阿修羅になつて書いた鎮魂歌」(「朝日新聞」二〇一二年・九・二三)
- ・松原新一「喫煙室・1」(「すとろんぼり」一二、「すとろんぼり」の会、二〇一二年・一〇)
- ・吉岡忍「今月の書評2 『樹滴』後藤みな子」(「潮」潮出版社、二〇一二年・一一)
- ・友納加代子「後藤みな子 四〇年ぶりの小説で人間の尊厳を描く」(「パンプキン」潮出版社、二〇一二年・一二)
- ・近藤ベネディクト、川口隆行(解題)「元編集者が残す『日本の原爆文学』全一五巻の記録」(「原爆文学研究」一一、花書院、二〇一二年・一一)
- ※後藤が『日本の原爆文学』への収録を断つたことについて言及。
- ・長野秀樹「『樹滴』合評会報告」(「原爆文学研究会報」四〇、原爆文学研究会、二〇一三年・一二)
- ※第四〇回原爆文学研究会(二〇一二年一月二三日)での合評会の報告。
- ・「佐賀にわか第一人者 筑紫美主子さん死去 九二歳」(「読売新聞」西部、二〇一三年・一〇・一一)
- ※後藤のコメントあり。
- ・花田俊典「スカラベ人名事典」(九州大学附属図書館九大コレクション) <https://hdl.handle.net/2324/441825>
- ・「松原新一さん 大阪で偲ぶ会」(「読売新聞」二〇一三年・一一・二二)
- ※後藤のコメントあり。
- ・松本常彦「時評 小説 職場と仕事 現実を描く」(「読売新聞」西部、二〇一四年・三・八)
- ・長野秀樹「西日本文学展望 六九年目の夏」(「西日本新聞」二〇一四年・七・三一)
- ・小林孝吉「被爆の刻を曳く家族」——後藤みな子『炭塵のふる町』(「千年紀文学」一〇七、千年紀文学の会、二〇一四年・七)
- ・小林孝吉「鎮魂といのちの滴——後藤みな子『樹滴』」(「千年紀文学」一〇八、千年紀文学の会、二〇一四年・一〇)
- ・長野秀樹「西日本文学展望 少年と少女」(「西日本新聞」二〇一五年・一・三〇)
- ・小林孝吉「記憶の底の声——後藤みな子『桐の露地』」(「千年紀文学」一〇九、千年紀文学の会、二〇一五年・一)
- ・小林孝吉「編集後記」(「千年紀文学」一〇九、千年紀文学の会、二〇一五年・一)
- ・「小倉城周辺の観光活性化策 検討会が初会合 「泊まれるお城」化PR 周辺施設との回廊整備を」(「西日本新聞」二〇一五年・九・一)
- ※後藤のコメントあり。
- ・三村保子「おすすめの本『炭塵のふる町』後藤みな子著」(「北九州市立文学館友の会会報」二、北九州市立文学館、二〇一五年・一〇)
- ・「後藤みな子」(小野恵、中西由紀子、稲田大貴、今川英子企画・編集「北九州市立文学館第二一回特別企画展 ブンガク最前線——北九州発」北九州市立文学館、二〇一五年・一〇)
- ・長野秀樹「西日本文学展望 人生を決めた時」(「西日本新聞」二〇一五年・一一・三〇)
- ・「佐木さんの思い受け継ぐ 北九州でお別れの会 ファンら功績振り返る」(「読売新聞」西部、二〇一五年・一二・一〇)

※後藤のコメントあり。

・松本常彦 「季評 小説 人生のカーブミラー」(「読売新聞」西  
部、二〇一五・一二・一二)

・楠田剛士 「後藤みな子」(西日本女性文学研究会編、谷口絹枝、西  
庄保監修『西日本女性文学案内』花書院、二〇一六・二)

・小林孝吉 「いのちと原始の森——後藤みな子」(小林孝吉『原発と  
原爆の文学—ポスト・フクシマの希望』菁柿堂、二〇一六・三)

※「千年紀文学」一〇七〜一〇九号掲載分をまとめたもの。

・長野秀樹 「西日本文学展望 母と子」(「西日本新聞」二〇一六・  
四・三〇)

・「「こんな自主事業を」ご意見を 二十八年度総会開会」(「北九  
州市立文学館友の会会報」三、北九州市立文学館、二〇一六・七)

※後藤のコメントあり。

・長野秀樹 「西日本文学展望 世界と一生」(「西日本新聞」二〇  
一六・一一・二九)

・長野秀樹 「西日本文学展望 家という装置」(「西日本新聞」二〇  
一七・三・三一)

・「二十九年度総会と初の会員交流会を開催」(「北九州市立文学館  
友の会会報」五、北九州市立文学館、二〇一七・七)

※後藤のコメントあり。

・中川成美 『戦争をよむ——七〇冊の小説案内』第五章9 (岩波  
新書、二〇一七・七)

・「いのちをみつめて 後藤みな子さん戦争を語る 朗読と演奏」  
(「毎日新聞」福岡、二〇一七・八・一一)

※後藤のコメントあり。

・松永京子 「遺伝」(川口隆行編著『原爆』を読む文化事典)(青弓  
社、二〇一七・九)

・楠田剛士 「炭鉱」(川口隆行編著『原爆』を読む文化事典)(青弓  
社、二〇一七・九)

・「文学館と伴走を」三十年代友の会総会」(「北九州市立文学館友  
の会会報」七、北九州市立文学館、二〇一八・八)

※後藤のコメントあり。

・「家族思いだった岩下俊作 小倉祇園太鼓四〇〇年 八田翠さん  
に聞く」(「北九州市立文学館友の会会報」八、北九州市立文学館、  
二〇一九・一)

※後藤が聞き手。

・「小倉祇園太鼓四百年の歴史展にあわせ 総会と講演会」(「北九  
州市立文学館友の会会報」九、北九州市立文学館、二〇一九・八)

※後藤のコメントあり。

・「文学とサッカーの架け橋に スポーツ哲学研究所を設立 ギラ  
ヴァンツ北九州社長 玉井行人さんに聴く」(「北九州市立文学館  
友の会会報」一〇、北九州市立文学館、二〇二〇・一)

※後藤が聞き手。

・井上浩志 「小説執筆を中断した作家の七五年間 「長崎原爆後  
の家族」を表現する後藤みな子さん #八月のメッセージ」(47  
ニュース)二〇二〇・八・一〇、<https://nordic.app/663675509916124257/>

・尾形明子 「後藤みな子」(日本近代文学館編『日本近代文学大事典  
増補改訂デジタル版』講談社刊行、JapanKnowledge 公開、二〇  
二二・五・一〇)

・「北九州市に平和資料館 来春開館目指す 八幡大空襲まざま

ま

ざと 新技術駆使し若者に伝承 「惨禍」壁に投影 戦争体験

証言集めに苦心」(「西日本新聞」二〇二一・八・五)

※後藤のコメントあり。

・北九州文化 学び深める 研究会設立 文学などテーマに催し」(「読売新聞」西部、二〇二二・八・四)

※後藤のコメントあり。

・牟田口洸介「戦後七七年 長崎原爆で崩壊 家族書く 作家・後藤みな子さん 使命感胸に筆を執る」(「読売新聞」西部、二〇二二・八・九)

・「兄が被爆死・母は心病み「深手を負った獣」のように…原爆で崩壊、自身の家族を書き続ける」(「読売新聞オンライン」二〇二二・八・九)

※「読売新聞」(西部、二〇二二・八・九)の転載。

・山本敦文「忘れたかった母と原爆」(「西日本新聞」二〇二三・五・三〇)

・小林孝吉「原爆の記憶を書きつづけること——後藤みな子の文学」といのちの物語」(「労働者文学」九二、労働者文学会、二〇二三・七)

・栗山雄佑「母の〈狂気〉を聞く」(「原爆文学研究会報」六九、原爆文学研究会、二〇二三・一〇)

・中野和典「後藤みな子」

※第七一回原爆文学研究会(二〇二四年三月一六日)での配布資料。

・楠田剛士「後藤みな子『高円寺へ』に向かうために」(「原爆文学研究会報」七一・七二、原爆文学研究会、二〇二四・八)

※第七一回原爆文学研究会(二〇二四年三月一六日)での報告要旨。

・岩下祥子「個別性を読むということ——雑誌「すとりんぼり」

の活動を通して——」(「原爆文学研究会報」七一・七二、原爆文学研究会、二〇二四・八)

※第七一回原爆文学研究会(二〇二四年三月一六日)での報告要旨。

・栗山雄佑「後藤みな子『高円寺へ』——〈母の狂気〉を描く娘—作家」(「原爆文学研究会報」七一・七二、原爆文学研究会、二〇二四・八)

※第七一回原爆文学研究会(二〇二四年三月一六日)での報告要旨。

・長野秀樹「講演記録一 原爆文学とその研究の現在」(「西日本国語国文学会」一一、西日本国語国文学会、二〇二四・八)

・楠田剛士「後藤みな子の原爆表現——訪問譚という方法」(「昭和文学研究」八九、昭和文学会、二〇二四・九)

・「被団協：核なき世界 平和の尊さ 次代へ 被団協ノーベル平和賞 北九州市民ら思い新た」(「毎日新聞」福岡、二〇二四・一・二二)

※後藤のコメントあり。

・楠田剛士「後藤みな子『高円寺へ』に向かうために」(「原爆文学研究」二三、花書院、二〇二五・二)

・岩下祥子「母を取り戻すための「文学」——「すとりんぼり」から『高円寺へ』へ——」(「原爆文学研究」二三、花書院、二〇二五・二)

・栗山雄佑「天皇を追う〈母の狂気〉を描く娘—作家——母の記憶はいかにして〈文学〉となったのか」(「原爆文学研究」二三、花書院、二〇二五・二)

・岩下祥子、楠田剛士、栗山雄佑「後藤みな子小説事典」(「原爆文学研究」二三、花書院、二〇二五・二)

・岩下祥子、楠田剛士、栗山雄佑「後藤みな子小説事典」(「原爆文学研究」二三、花書院、二〇二五・二)